

# トラックス

## クラウドで運送管理

### 規制変更など柔軟に対応

物流ITのトラックス(松尾中彦代表取締役)は1月から、クラウド運送業務管理システム「DriveDoor」のサービス提供を開始した。従来の運送業務管理システムはスタンドアロン型のパッケージが中心だったが、DriveDoorは機能拡充などに柔軟に対応できる日本初の「成長型」と銘打ち、クラウドサービスを展開していく。現状のユーザー数は7社9サービス(ID発行分)。販売初年度は200社・300サービスを目標とし、2〜3年内に1000サービスの販売を目指す。松尾代表は「クラウド型であるため、将来的には海外展開も視野に入れている。対応言語も日本語に加え、中国語、英語、タイ語などを考えたい」と国内で基盤を作り、海外に打って出る意向を示した。

### 「DriveDoor」提供開始

DriveDoorは運送業務に特化したクラウドサービスで、受注から請求まで日々の業務を同一システムで運用できる機能が備わっている。現状の運送管理システム

の主流を占めるスタンドアロン型の場合、メンテナンスコストで初期費用100万円以上、メンテナンスコストも年間10万円以上必要など珍しくない。DriveDoorはネットに

接続できる環境さえあれば使用端末台数や使用場所にも制限がなく、煩雑な法令変更などにもクラウド型で対応。導入・利用コストも10分の1以下に抑え、中小企業が利用しやすい仕組みとしている。また、財務・会計など基幹システムとの連携も考慮した設計となっ

ている。

トラックスでは四半期に1回程度の、定期的なDriveDoorのバージョンアップを掲げている。利用ユーザーからの要望をまとめた形でシステムに反映するため、バージョンアップのメリットを全ユーザーが無償で享受できる。この柔軟性、拡張性から、トラ

ックスでは同システムを「成長型」システムとしている。4月末からは、リアルタイム運送情報管理オプション、同動態管理オプションの提供も開始する。ともにスマートフォンやタブレット

ト、さらにGPSなどを活用し、ドライバーへの適切な情報提供などで、運送品質の向上を図れる。導入初期費用は7万円。月額費用は1万5000円。営業所1拠点を追加するごとに3000円。ユーザー側でのメンテナンスは不要で、新機能を含むバージョンアップは随時無償で実施する。

問い合わせはトラックス(電話047-308-346、ホームページ: <http://trucks.jp>)まで。